

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-139	21-327	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Alcohol and other substance use during the COVID-19 pandemic: A systematic review COVID-19 パンデミック時のアルコールと他の物質 (薬物) の使用。システマティックレビュー		
執筆者		
Amanda Roberts ¹ , Jim Rogers ² , Rachael Mason ² , Aloysius Niroshan Siriwardena ² , Todd Hogue ³ , Gregory Adam Whitley ² , Graham R Law ²		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2021 Dec 1;229(Pt A):109150. doi: 10.1016		
キーワード	PMID	
アルコール使用、Covid-19、メンタルヘルス、パンデミック、物質使用、系統的レビュー	34749198	
要 旨		
<p>背景 Covid-19 の流行期間中に物質 (薬物) とアルコールの使用量が変化する可能性を示唆する証拠があるが、これに関する証拠の完全なレビューはない。</p> <p>方法 Covid-19 パンデミック時のアルコールおよびその他の物質使用の頻度と重症度、およびさらなる臨床的意味を示唆する人口動態および精神衛生変数との関係を記録し解釈するために、すべての利用可能なエビデンスの系統的レビューを実施した。MEDLINE、Embase、PsycINFO、CINAHL complete、Sociological Abstracts のピアレビュー済み論文を2019年12月から2020年11月まで検索した。</p> <p>結果 検索とスクリーニングにより、513件の重複記録から45件の論文が同定された。その結果、アルコール摂取については、さまざまな意見があることがわかった。全体として、アルコール消費量が増加する傾向が見られた。パンデミック時にアルコールを消費した人の割合は、一般人口サンプルで21.7%から72.9%の範囲であった。アルコール使用とは異なり、COVID-19の流行期間中は、他の物質 (薬物) 使用が増加する明確な傾向が見られた。パンデミック中に他の物質を消費した人の割合は、一般集団で3.6%から17.5%の範囲であった。精神衛生上の要因が、アルコールとその他の物質の両方の使用増加の最も一般的な相関関係または誘因であった。</p> <p>結論 パンデミックの期間中、アルコールと他の物質使用に関する問題に対する治療の必要性が高まっている。個人と家族の生活の質を向上させるだけでなく、社会と医療制度への追加コストを防ぐためにも、パンデミックの後の期間には、より多くのターゲットとエビデンスに基づく介入が重要になるであろう。</p>		